



# DocAve® 6 ソフトウェア プラットフォーム

## SP4 CU1

### リリース ノート

リリース日: 2014 年 7 月 16 日

## DocAve 6 SP4 CU1 アップデート詳細

お使いの DocAve インスタンスのアップデートについては、[DocAve コントロール パネル ユーザーガイド](#) 内 **更新マネージャー** セクションを確認してください。

DocAve 6 SP4 から SP4 CU1 へのアップデートに関連する重要な詳細は以下の表の通りです。

直接アップデートに必要な最低バージョン	DocAve 6 SP4
対応する SharePoint バージョン	SharePoint Online、SharePoint Server 2010、SharePoint Server 2013 に対応しています。SharePoint のバージョンに関する詳細は、 <a href="#">DocAve 6 インストール ガイド</a> を確認してください。
その他 AvePoint 製品との依存関係	対応プラットフォーム バージョン間の互換表については、AvePoint ナレッジベース内 <a href="#">Governance Automation, DocAve, SharePoint, and SnapManager for SharePoint Support Matrix (英語)</a> を確認してください。
新規ライセンス要否	×
IIS リセット要否	○
マネージャー サーバーのリポート要否	×
エージェント サーバーのリポート要否	×
アップデート状況の確認方法	コントロール パネル > 更新マネージャー > <b>履歴の表示</b> でアップデート状況を検証できます。 <b>履歴の表示</b> ページで、新しくインストールした更新の <b>バージョン</b> 列を確認してください。

## 新機能と強化点

- **コントロール パネル > 登録済み SharePoint サイト** のスキャンモードが改善され、すべての SharePoint Online サイトのサイト管理者グループにグローバル管理者が自動的に追加されるようになりました。
- レポート ポイントで、**情報管理ポリシー** および **今後失効するコンテンツの有効期限** に関するレポートが新たにコンプライアンス レポートに追加されました。**情報管理ポリシー** レポートでは、指定の範囲の Web アプリケーション、サイト コレクション、サイト、リスト内のサイト コレクションおよびリストのコンテンツ タイプに関連する情報管理ポリシーの詳細が表示されます。**今後失効するコンテンツの有効期限** レポートでは、指定の範囲の Web アプリケーション、サイト コレクション、サイト、リスト内で情報管理ポリシーの保持設定が適用され、かつ特定の期間内に有効期限が失効する予定のコンテンツの詳細が表示されます。

# バグ修正

## レポート ポイント

- 利用状況通知およびスケジュールを構成したアクティビティの多いユーザー レポートを生成する利用状況レポート プランを構成する場合、利用状況通知で設定した構成済み閾値は適用されなくなります。アクティビティの多いユーザーの利用状況通知の設定に対する構成済み閾値は適用されなくなります。この設定で構成した期間内に何らかのユーザー アクティビティが発生すれば、レポート ポイントでは構成した間隔に従ってアクティビティの多いユーザーの利用状況通知メールを送信します。この各通知メールには、該当する期間内のユーザー アクティビティがすべて含まれます。ユーザー アクティビティ数がプランで構成された閾値を超えるかどうかを決定する際に使用される SQL クエリ条件の閾値には、何の値も割り当てられません。
- 利用状況レポートのプランを構成する際に、アクティビティの多いユーザーの利用状況通知設定を有効にしてスケジュール ベースのアクティビティの多いユーザー レポートを生成した場合、アクティビティの多いユーザーの利用状況通知の設定で構成したしきい値は正常に作動しません。この設定で構成した期間内に何らかのユーザー アクティビティが発生すれば、構成した間隔に従ってアクティビティの多いユーザーの利用状況通知メールを送信します。この各通知メールには、該当する期間内のユーザー アクティビティがすべて含まれます。

## 既知の問題

### インストール

- Windows Server 2012 および Windows 8 環境で DocAve 6 プログラムを検索すると、DocAve 6 ショートカットは既定で Internet Explorer (IE) 10 の Metro UI 版で開きます。IE 10 では Silverlight 5.0 に対応していないため、スクリーン解像度が低いので IE が実行できない旨のメッセージが表示されます。この問題を解決するには、IE 10 デスクトップ版、または Windows 8.1/Windows 2012 R2 環境 (デスクトップからのショートカットを使用するなど) の IE 11で DocAve 6 を開きます。
- Windows アップデート KB2756920 をインストールした後にコントロール サービスにアクセスできない状態が発生した場合、ホットフィックス KB2637518 をインストールすることで解決します。ダウンロードリンクは **Microsoft® サポート 技術情報** 内にあります。

### コントロール パネル

- .Net Framework 3.5 環境に DocAve エージェントをインストールした場合、その後同環境で .Net Framework 4.5 にアップグレードしても DocAve インターフェイスで SharePoint Online のサイトは表示されません。これは、.Net バージョンの情報がはじめに DocAve マネージャーでエージェントを登録する際に取得されるためです。3.5 から 4.5 へのアップグレード終了後、SharePoint Online に接続する前にエージェント サービスを再起動する必要があります。
- Administrators および Users グループで **Internet Explorer セキュリティ強化の構成** が有効化されていると、ジョブ モニターでジョブ レポートおよびライセンス レポートをダウンロードすることができません。この問題を解決するには、サーバー マネージャーに移動し、セキュリティ情報セクション内の [IE ESC の構成] リンクをクリックします。**Internet Explorer セキュリティ強化の構成** インターフェイスが表示されます。Administrators セクションおよび Users セクションで [オフ] ラジオボタンを選択し、[OK] をクリックして変更を保存すると、レポートをダウンロードできるようになります。

### 移行

#### SharePoint 移行

- SharePoint 2007 から 2010 への移行ジョブを実行し、SharePoint 2010 Web アプリケーション内で管理パスを作成した場合、移行先として手動で作成したサイト コレクションを選択すると、Web アプリケ

ーション ノードを更新しても新しく作成した管理パスが移行先のツリーに読み込まれません。この問題を解決するには、Web アプリケーションのあるファーム ノードを更新する必要があります。

## eRoom 移行

- eRoom 内の Windows NT ドメイン タイプを使用してディレクトリ接続を追加し、このドメインからユーザーおよびグループを eRoom へ同期したのち、同期したグループから新たにグループを追加して同一ドメイン内の SharePoint に eRoom を移行すると、グループの移行に失敗します。これは、eRoom 移行ではディレクトリ接続名をドメイン名として使用するため、eRoom 移行時に 2 つの異なるドメイン間での移行と認識されてしまうために発生します。この問題を解決するためには、移行元の eRoom 接続名と移行先のドメイン名をマッピングするようドメイン マッピングを構成する必要があります。
- DocAve 6.2 を使用してエクスポートした移行元 eRoom データを DocAve 6.3 へインポートできないという既知の問題があります。このため、SP3 へのアップグレード前にデータをインポートするか、アップグレード後に SP3 を使用して再度エクスポートしてください。

## パブリック フォルダ移行

- オンプレミス版 Outlook から OWA (Outlook Web App) に向けて、または OWA からオンプレミス版 Outlook に向けてメールを返信する際、メールの件名を変更すると、返信メールのスレッド インデックス プロパティの値が変更され、それ以降の返信が同じトピックで処理されなくなります。返信や転送メール、元のメールなどは移行先 SharePoint 内のディスカッション掲示板に移行されます。スレッド インデックスの値に変更があった返信や転送メールは、移行先でも同じトピックとして移行されることはありません。

## EMC Documentum 移行

- 互いに属性を継承しあう 2 種類の Documentum タイプが移行後も移行元に存在している場合、これら 2 種類の SharePoint コンテンツ タイプは移行先で継承を保持しません。<sup>\*</sup>注意: EMC Documentum のタイプは SharePoint のコンテンツ タイプと同じものになります。

## ファイル システム移行

- ファイル システム移行を実行する際に、移行先としてドイツ語サイトを指定してプランを保存し、メタデータ ファイルの手動での構成を選択した場合、保存する Microsoft Excel ファイル上でドイツ語の翻訳を手動で編集する必要があります。既定の用語セットのパス: システム; キーワード内の [キーワード] のドイツ語訳が SharePoint 訳と一致しません。この問題を解決するためには、Excel ファイルを開き、Schlüsselwörter を Schlüsselwörter (SharePoint 訳に合わせるため) に変更して Excel ファイルを保存し、ジョブを再実行します。これにより、既定値が [システム; キーワード] の状態で管理されたメタデータ列が移行先ノードに作成されます。

# データ保護

## スタンバイ センター

- ダッシュボードで複数のグループが選択されている場合、スタンバイ センターの同期・フェールオーバー ジョブが失敗することがあります。
- DocAve 6 SP3 を SP4 に更新する場合、AlwaysOn 可用性グループを使用して SP3 から更新されたスタンバイ センター グループを同期方法として指定すると、プレスキャンおよび同期ジョブは失敗します。これは、SP4 スタンバイ センター AlwaysOn 可用性グループの同期方法が SP3 と異なるためです。解決策としては、SP4 に更新した後、スタンバイ センター グループを編集し、列のヘッダーの [削除] をクリックしてグループ内のノードをすべて削除してから追加しなおします。グループを保存し、このグループを使用してスタンバイ センター ジョブを実行します。
- スタンバイ センターでは、カスタム ポートを持つ名前付き SQL インスタンスを同期先 SQL インスタンスとしてテストすることはできません。ポートを持つ名前付き SQL インスタンスが同期先 SQL インスタンスとして指定された場合、スタンバイ センター同期ジョブはスタンバイ データベースを同期先 Web アプリケーションに添付できません。解決策としては、スタンバイ センターのジョブ実行用のエージェント グループに含まれるすべての DocAve エージェントを確認し、エージェントがインストールされている各サーバー上で SQL エイリアスを構成します。同じ SQL インスタンス名をエイリアス名に使用し、エイリアス名をカスタム ポート番号を持つこの名前付きの SQL インスタンスにダイレクトします。
- SQL インスタンス設定でマスター キーを構成した後に、SQL インスタンスのマスター キーを変更する場合、更新したマスター キーは SQL インスタンス設定インターフェイス上に表示されません。

## 最小単位バックアップ&リカバリー

- Office 365 の登録ユーザーによって開かれている、またはチェックアウトされているファイルのバージョンはバックアップできません (SharePoint 2010 で発生)。
- ドメイン マッピングを使用する際、ドメイン サフィックスが追加されている場合はドメイン マッピングが適用されません。例: ドメイン名.com (SharePoint 2013 で発生)
- 権限の継承を解除したサブサイトを含むサイト コレクションをリストアする場合、リストア後のサブサイトはサイト コレクションの権限を継承してしまいます。バックアップ ジョブ前に作成したアクセス許可レベルはすべてサイト コレクションのアクセス許可レベルに含まれます。(SharePoint 2013 で発生)
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、対応するデータベースの指定のフィールドに保管されます。サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグ

ループのユーザー名は、対応するデータベースの指定のフィールドに保管されます。この指定のフィールドの長さは、1024 以上に設定することができません。(SharePoint 2013 で発生)

## プラットフォーム バックアップ & リストア

- Windows 2012 では、データ ファイルがネットシェア パスに保存されているデータベースは VSS を使用したバックアップに対応していません。
- 単一サーバー構成の SharePoint ファームでは、エージェントがインストールされたマシン名が 15 文字を超過し、かつマシンの IP アドレスが SharePoint 構成の際にデータベース サーバーの値として使用されている場合、DocAve エージェントでこのファームのサーバー ロールについての正しい情報を得ることができません。C# API ではサーバー名の 15 文字までしか取得することができないため、DNS から取得した情報との不一致が発生します。そのため、エージェントでサーバー ロールを取得することができません。この問題の解決方法として、サーバー名が 15 文字を超過する場合は、…¥AvePoint¥Agent¥bin¥AgentCommonVCEnv.config に移動し、localSPServerName の値を完全なサーバー名に変更して、修正を保存します。
- SharePoint 2013 ファーム内に複数の Search Service アプリケーションが存在しており、かつインデックス コンポーネントが同一 SharePoint サーバー内に保管されていない場合、Search Service アプリケーション バックアップの際にインデックス コンポーネントをバックアップすることはできません。
- 透過的データ暗号化 (TDE) が施されたバックアップ済みデータベースの [別の場所へリストア] を実行する際、事前にリストア元のマスター キーがリストア先で生成されていない場合、[別の場所へリストア] ジョブは失敗します。この回避策として、リストア先 SQL Server 上で以下の SQL ステートメントを使用し、リストア元と同じマスター キーを生成します。

```
"USE master;
```

```
GO
```

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';
```

```
Go"
```

その後 [別の場所へリストア] ジョブを実行し、TDE 暗号化済みデータベースをリストアします。

TDE 暗号化済みデータベースのバックアップの [別の場所へ] リストアを実行する場合、マスター キーが必要です。リストア先の SQL Server でマスター キーを作成するには、以下の SQL ステートメントを使用してください。

```
"USE master;
```

```
GO
```

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';
```



## Go"

バックアップ ジョブの実行前にエレメント `<ForceUseCache>false</ForceUseCache>` の値を **true** に変更すると、インデックスを正常に生成することができます。

## 運用管理

### コンテンツ マネージャー

- コンテンツ マネージャー ジョブを実行してオンプレミスの SharePoint サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションへ移行する場合、アンケートリスト内の 完了 列の値は移行元で **いいえ** に設定されていた場合でも移行先では **はい** に変更されます。(SharePoint 2010 で発生)
- コンテンツ マネージャー ジョブを実行して SharePoint オブジェクトを (ディスカッション リストを含めた) コミュニティ サイトから (ディスカッション リストを含めた) チーム サイトへコピーすると、コピー元のディスカッションはコピー先で使用できなくなります。また、リスト設定内の [削除] アクションがコピー先で非表示となり、サイト コミュニティ 機能もコピー先で使用不可となります。(SharePoint 2013 で発生)
- エクスペリエンス バージョンが 2010 かつドキュメント セット機能を有効化しているサイト コレクション からエクスペリエンス バージョンが 2013 であるサイト コレクションに SharePoint オブジェクトをコピーすると、コピー元のドキュメント セットはコピー先サイト コレクションへコピーされません。(SharePoint Online 2013 ファームで発生)

### 展開マネージャー

- API 制限のため、未発行の Nintex ワークフローは展開先環境へ展開することができません。
- 2010 エクスペリエンス バージョンを選択して、ドキュメント センター テンプレート サイト コレクションを展開元として指定し、展開先のサイト コレクションを手動で入力して展開マネージャー ジョブを実行すると、[最高評価のドキュメント Web パーツ] に表示されているドキュメントは展開先へ正常に展開されません。
- DocAve SP1 と SP3 CU3 ではデータ構造が変わるため、SP1 から SP3 CU3 へのアップグレード実行後に SP1 の展開ジョブから開始したロールバック ジョブは失敗します。
- 展開元および展開先両方のコンテンツ タイプで名前が一致しているがタイプが一致しない場合、コンテンツタイプは展開先で上書きされません。この場合、元の名前の末尾に数字を追加して新しくコンテンツ名が作成されます。(SharePoint 2010 で発生)
- Web フロント エンド レベルの展開プランを構成し、[展開先環境をバックアップする] オプションを選択、ジョブを実行後、DocAve を更新した場合、ジョブ モニター上で Web フロント エンド レベルの展開ジョブを選

択して、リボン上の [ロールバック] をクリックすると、ロールバック ジョブが失敗したことを確認できます。DocAve の更新を行うと、このようなロールバックの操作は現在正常に起動しません。

## レプリケーター

- SharePoint では、レプリケート元となるサイト コレクションに新しいグループを追加するとリアルタイム レプリケート ジョブを開始するイベントが発生し、データのレプリケート先にグループを同期します。SharePoint はグループ所有者をグループ ユーザーに自動的に追加します。この場合はイベントは発生せず、リアルタイム レプリケート ジョブは開始されません。また、グループの所有者はレプリケート先のグループ ユーザーにはレプリケートされません。グループの所有者は、次回以降のレプリケート処理が開始された際に正常にレプリケートします。
- レプリケート元およびレプリケート先でコンテンツ クエリ Web パーツを使用する場合、クエリされたリストもレプリケートする必要があります。この作業では Web パーツを含む SharePoint オブジェクトに加え、依存リストのレプリケートも必要となります。Web パーツが依存する関連リストはサイト内の複数個所に存在する場合があるため、レプリケーターではこれらのリストの自動レプリケートは実行しません。
- 管理されるメタデータの用語のレプリケートは、レプリケート元とレプリケート先の両環境で Managed Metadata Service が Web アプリケーション レベルで関連付けられ、かつ構成されている場合を除いて実行できません。
- プラン マネージャー インターフェイスでオンライン プランをインポートする場合、ジョブの完了後もメモリーの空き容量が完全に解放されない可能性があります。これは ItemsControl という名前のコントロールに付随する Built-in エラー イベントがメモリ内に残るためです。この問題を解決するには、まず DocAve からいったんログアウトし、ログインし直します。これによりステータスが使用中のメモリも解放されます。
- タイムライン構成の更新分は増分レプリケート ジョブに含まれません。増分レプリケート ジョブは SharePoint イベント キャッシュ テーブルからレコードを特定することができますが、タイムラインの更新分については SharePoint 内のイベント キャッシュ テーブルには記録されません。このため、タイムライン構成は増分レプリケート ジョブから除外されます。(SharePoint 2013 で発生)
- コンテンツ クエリ Web パーツのコンテンツは、レプリケート先で正しく表示されない場合があります。これはコンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート先に存在しないので、レプリケート ジョブに含まれないためです。この問題の解決法として、コンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート元の範囲に含まれているか、もしくはレプリケート先に存在するかを確認する必要があります。(SharePoint 2010 で発生)

- SharePoint 2010 環境内で関連用語をアイテム レベルでレプリケートする際の問題を回避するため、Managed Metadata Service がレプリケート元・レプリケート先の両環境内の Web アプリケーションに関連付けられていることを確認する必要があります。
- SharePoint 2013 の保留リストと電子情報開示の機能を使用して新たに作成されたファイル バージョンは、リアルタイム レプリケートによる複製の対象にはなりません。これは新規作成ファイルが旧バージョンの更新日時を保持しているためです。この場合、ファイルはスケジュール設定されたレプリケート ジョブが実行されるタイミングでレプリケートされます。
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、1024 文字を超える長さに設定することはできません。(SharePoint 2013 で発生)

## コンプライアンス

### リーガル ホールド

- DocAve エージェントを全体管理サーバーまたは 1 つの SharePoint Foundation 2013 SP1 ファームの Web フロントエンド サーバーにインストールし、DocAve マネージャーにログイン後、**コンプライアンス > リーガル ホールド > バージョン クロール** の順に移動した場合、リボン上で [有効化] をクリックしても Search Service アプリケーションは有効になりません。リボン上で [コンテンツ ソースの構成] を選択し、[作成] をクリックして新しいコンテンツ ソースを作成する場合、ファームはコンテンツ ソースの選択フィールドに読み込まれません。

### Vault

- 選択した Web アプリケーションに対して Vault ジョブを繰り返し実行した際に、ジョブの実行者が選択した Web アプリケーションに対して **すべて読み取り権限** しか保持していない場合は、Vault ジョブは完全バックアップ ジョブとして実行されます。この問題は、Vault ジョブを実行したユーザーがジョブ内の選択した Web アプリケーションに対して十分な権限を保持していないため発生します。Vault ジョブを実行するユーザーが、選択したノードへのフル コントロール権限を保持しているかを確認してください。
- DocAve 6 SP3 Vault および API/コマンドレット は SharePoint 2013 に対応していません。
- Vault ジョブの実行後にコントロール サービスが停止し、ジョブの完了後にコントロール サービスを再実行した場合、ジョブは失敗し、エクスポート済みオブジェクトはジョブ レポートに表示されません。しかし、ジョブ内の選択したノードの SharePoint コンテンツは正常にエクスポートされます。コントロール サービスではジョブ情報が受信されず、ジョブはタイムアウトしますが、DocAve エージェントは正常に起動し選択したノードからコンテンツをエクスポートします。

## レポート ポイント

- ファーム レベルでのベスト プラクティス レポートには、評価の数は含まれません。(SharePoint 2013 で発生)
- DocAve のバージョンを SP3 CU2 にアップデートした後に SharePoint の Web パーツを再展開しない場合、ソーシャル データの収集と保存に問題が生じる場合があります。
- SharePoint 2013 ファーム内の SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクションのトップ ディスカッションおよびトップ ブログの投稿 Web パーツでは、SharePoint 2010 ではいいね！ 機能が無いにもかかわらず、SharePoint 2013 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクション内でディスカッション掲示板の いいね！ データや Web パーツが収集されます。結果として、いいね！ はディスカッションの数とブログ投稿のアクティビティ総数には含まれますが、レポートには表示されません。
- ソーシャル アクティビティ Web パーツを [サブサイトを含む現在のサイト] に設定し、その後新しいサブサイトを作成した場合、ソーシャル コレクターは新しく作成されたサブサイトを認識しません。回避策としては、新しいサブサイトの作成後 Web パーツのソーシャル プロパティに移動し、[選択の変更] をクリックしてアイテム表示の構成ウィンドウを開き、[OK] をクリックして構成を保存します。オブジェクト選択のアップデート後は、この Web パーツ のデータは正常に収集されるようになります。
- SharePoint 2013 環境では、評価データは各アイテムおよびドキュメントのプロパティとして、ソーシャル データベースではなく該当のコンテンツ データベース内に保存されますが、これによりファーム レベルでアイテムおよびファイルすべての評価データを取得できにくくなります。各コンテンツ データベース内に保存された評価データはソーシャル データベースに関連するものではないため、ソーシャル データベースの制限に含めるべきではないことに注意してください。
- DocAve では、発行側ファームの共有サービス データと使用側ファームの共有サービス データは識別されません。このため、両ファームのデータは一括で表示され、ファームごとに分けられることはありません。
- **AvePoint トップ ドキュメント** もしくは **AvePoint トップ Wiki ページ** Web パーツで取得した閲覧用のデータを含むドキュメントまたは Wiki ページを削除する場合、閲覧用のデータも同時に消去されます。SharePoint のごみ箱から削除済みコンテンツをリストアし、レポート ポイントでソーシャル データ コレクター ジョブを実行しても、[すべて] の期間オプションが適用されたリストア済みコンテンツの閲覧用のデータでは、復元後に閲覧された回数しか表示されません。
- **AvePoint 人気の投稿者** および **AvePoint トップ ディスカッション** Web パーツでは、コミュニティ サイトのディスカッションに対する 閲覧用のデータは表示されません。コミュニティ サイト内のディスカッションを表示中に生成されたクエリ文字列は、その他のサイトのクエリ文字列とは異なるものになります。レポート ポイントのソーシャル コレクターは、この種のクエリ文字列に基づいてコミュニティ サイトのディスカッションに対する

“ビュー” イベントを識別することができず、**AvePoint 人気の投稿者** および **AvePoint トップ ディスカッション** Web パーツの閲覧用のデータを表示することができません。

## ストレージ最適化

### アーカイバ

- 13 文字を超えるファイル名を持つアーカイブ済みファイルを SharePoint からダウンロードした場合、ダウンロードしたファイルのファイル名は 13 文字しか表示されません。この問題は SharePoint による HTTP ヘッダーのパラメーターの長さ制限により発生します。
- エンドユーザー アーカイバでは、エラー メッセージの構成インターフェイスで選択済みノードに対するエラー メッセージを構成の際、入力するテキストをキーボード上の Ctrl + V により貼り付け、[保存] をクリックし、更新したエラー メッセージを保存するとエラーが発生します。これは、Silverlight 5.0.61118.00 内のバグが原因で引き起こります。DocAve マネージャーがインストールされたサーバー上で Silverlight を更新する必要があります。
- DocAve 6 サービスパック (SP) 3 を SP4 に更新する場合、更新完了後は SharePoint 内のアーカイブ済みデータ (SP3 でアーカイブ) に対する検索権限を持つユーザーは、アーカイブ済みデータを閲覧できなくなります。これは、2 つの DocAve バージョン間で生じるロジックの違いにより引き起こります。この問題を解決するには、DocAve マネージャーへログインし、**コントロール パネル > インデックス マネージャー** で、SP3 で使用していたプロファイルと同様の設定が適用されたインデックス プロファイルを新規に作成します。ここで作成されたプロファイルは SP4 で使用されます。
- DocAve 6 SP3 を使用してアイテム・アイテム バージョンをアーカイブするアーカイバ ジョブを実行してから SP4 への更新を行う場合、SP3 でアーカイブされたアイテム・アイテム バージョンを SP4 のアイテム タイトルおよびアイテム バージョンのルールを活用して検索することはできません。この問題は、2 つの DocAve バージョン間で生じるインデックスの違いが原因で引き起こります。SP3 内のジョブでは、アイテム タイトル用の全文インデックスは生成されません。
- DocAve 6 SP3 を SP4 に更新する場合、SP3 で実行したアーカイバ ジョブを選択し、ジョブ モニターで [ジョブ ログのダウンロード] をクリックします。これにより、アーカイバ ジョブのログはダウンロードされますが、処理プールのログはこのなかに含まれません。この問題は、SP3 で取得した処理プールのログにジョブ ID が含まれないため発生します。
- SharePoint 2010 ファームのみ DocAve に存在する場合、アーカイバ リストア インターフェイス内の全文インデックス モードで、高度検索ポップアップ ウィンドウにニュースフィード アイテムがルールとして表示されます。ツリー ノードを選択する前に、高度検索の機能は SharePoint 2010 および SharePoint 2013 の両環境で表示されます。



- ニュースフィードの投稿ルールが適用された WSS 2013 ノードに対してアーカイバ ジョブを実行する場合、ジョブの完了後にニュースフィードの投稿をすべてアーカイブできなくなります。この問題は、WSS 2013 環境ではユーザー プロファイル サービスに対応していないため発生します。
- [データをアーカイブする際にデータを SharePoint に保持する] オプションを選択するアーカイバ ルールを作成し、[次のオプションを選択して各ドキュメント / アイテムにタグを付ける] チェックボックスを選択、選択したノードがチェックアウト済みファイルを含むアーカイバ ジョブを実行する場合、アーカイバ ジョブの完了後、チェックアウト済みファイルにはアーカイバ ルールで指定した列の値が表示されません。この問題は、ファイルをチェックアウトする際に [ローカルの下書きフォルダを使用する] チェックボックスを選択すると発生します。このロジックは SharePoint のロジックと一致します。ファイルをチェックアウトする際に [ローカルの下書きフォルダを使用する] チェックボックスを選択すると、このファイルのプロパティを編集することができません。
- ノードに対するエンドユーザー アーカイバ リストア用の必須権限を変更し、アーカイバ ジョブを実行しない場合、ノードへの十分な権限を持つユーザーはアーカイバ済みデータを一切閲覧できないか、アーカイバ リストア ジョブを実行することができなくなります。ノードのリストア権限は Index.db ファイルへ保存されます。Index.db はアーカイバ ジョブの実行後にのみ更新されます。
- アーカイバ リストアの全文インデックス モードで高度検索の機能を使用する際、[次の値を含む] および [次の値に一致する] 条件では、\* はワイルドカードとして使用され、データを検索します。この問題の解決策としては、スラッシュ (¥) を \* の前に挿入することで通常の文字として扱われます。
- テンプレートが発行ポータルであるサイト コレクションを選択し、このサイト コレクションに対してドキュメント ルールを適用、アーカイバ ジョブを実行する場合、ジョブの完了後にサイト コレクションのホームページ上の built-in 画像は表示されません。このタイプのサイト コレクションで使用される built-in 画像はスタイル ライブラリおよびイメージ ライブラリに保存され、アーカイバ ジョブに含まれます。
- ツリー ノード内の SharePoint Server 発行インフラストラクチャのサイト コレクションの機能、および SharePoint Server 発行のサイトの機能がアクティブなサイト コレクションを選択すると、このサイト コレクションのページ ライブラリ配下に大量のページ バージョンが存在することになります。サイト コレクションにサイト コレクションのルールを適用し、アーカイバおよびアーカイバ リストア ジョブを実行すると、バージョンによりページのサイズが異なります (旧バージョンで発生)。これに加えて、アーカイバ リストア ジョブの実行前と後では、現在のバージョンのページは異なって表示されます。この問題は SharePoint の制限により発生します。
- 更新マネージャーで DocAve 6 サービス パック (SP) 2 を SP3 にアップグレードし、AgentCommonWrapperConfig.config ファイルを更新してアーカイバの最終アクセス時刻ルールに使用されるロジックを変更します。この作業をしても、構成ファイルで SharePoint 内の該当するストレージ マネージャーのスタブに対する最終アクセス時刻の使用を指定している場合、もう一方のロジック (監査データ取得ジョブにより取得された最終アクセス時刻を使用する) を適用したポップアップ ウィンドウが表示されます。このポップアップ ウィンドウは DocAve マネージャーによって管理されており、DocAve マネージャーではAgentCommon

WrapperConfig.config ファイルが変更されたかどうかを監査できないため、どのロジックが使用されてもバックアップ ウィンドウは表示されます。

- アーカイバ列を含んだ各ファイルにタグ付けをするアーカイバ ジョブを実行、アーカイバ ジョブの SharePoint データを変更、および同じノードでアーカイバ ジョブを再度実行すると、アーカイバ列の値はまだ存在します。これは、データのバックアップ中は DocAve ではアーカイバ列およびカスタム列の識別ができないため発生します。アーカイバ列の値はすべてバックアップ・リストアされます。
- アーカイバ ルールで [各ドキュメントのスタブを SharePoint に保持する (ストレージ マネージャーを使用)] チェックボックスを選択して、SharePoint 2013 環境で Microsoft Office ファイルを含むノード上でアーカイバ ジョブを実行します。この時、SharePoint データは変更せず、[各ファイルを SharePoint レコードとして宣言する] チェックボックスを選択して再度同じノード上でアーカイバ ジョブを実行すると、アーカイバ ジョブは例外を含み完了します。[各ファイルを SharePoint レコードとして宣言する] チェックボックスを選択してアーカイバ ジョブを実行すると、ストレージ マネージャーのスタブは実コンテンツに変換されます。
- サイト コレクションからサイトへの権限継承を解除し、サイト コレクションにグループを追加、エンドユーザー アーカイバ リストアのサイト コレクションに対する必須権限をグループに付与します。この後サイトおよびサイト コレクション上でアーカイバ ジョブを実行すると、グループ内のユーザーはまだサイト内のアーカイブ済みコンテンツを閲覧・ダウンロード・リストアすることができます。
- SharePoint 2010 エクスペリエンスのサイト コレクションと SharePoint 2013 エクスペリエンスのサイト コレクションの両環境でアーカイバ ソリューションを展開すると、ソリューション コレクションのうち 1 つを取り消す際にアーカイバ ソリューションが取り消されます。この問題は SharePoint ロジックにより発生します。問題の解決方法としては、**コントロール パネル > ソリューション マネージャー** で、サイト コレクション上で取り消し済みアーカイバ ソリューションを展開します。
- 構成済み物理デバイスのタイプが FTP であるストレージ ポリシーを作成し、アーカイバ ルールでこのストレージ ポリシーを使用、このルールを使用してアーカイバ ジョブを実行後、該当するアーカイバ リストア ジョブを実行すると、ジョブは完了 (実行中に例外あり) する可能性があります。これは、2 つ以上のアーカイバまたはアーカイバ リストア ジョブが同時に実行した場合に起こります。既定では、FTP クライアントに対する接続セッションの最大数は 2 です。2 つ以上のアーカイバまたはアーカイバ リストア ジョブが同時に実行した場合、1 つのジョブは 2 つの接続セッションを使用します。2 つ以上のジョブが実行している際、FTP クライアントに対する接続セッションの数はセッション制限を超え、新しい接続セッションはタイムアウトします。
- 個人用サイトを作成したことのないエージェント アカウントを使用して、サイト コレクションのニュースフィードの投稿を投稿、アーカイバ ルールのニュースフィード投稿レベルをサイト コレクションに適用し、アーカイバ ジョブを実行する場合、新しく投稿されたニュースフィードの投稿に対するスキャンは失敗します。この問題を解決するには、このエージェント アカウントを活用して個人用サイトを作成する必要があります。
- DocAve 6 SP2 CU1 を使用して、エンドユーザー アーカイバ ソリューションをファーム内の Web アプリケーションの一部に展開、DocAve マネージャーおよびエージェントを DocAve 6 SP4 に更新し、エンドユーザー

ザー アーカイバ ソリューションが展開されていない Web アプリケーションのエンドユーザー アーカイバの機能を使用すると、この機能に対する GUI アイテムが正常に表示されません。解決策としては、インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの Web アプリケーションの Web サイトを再起動させます。

- アーカイバでは、SharePoint 2013 環境のアプリをアーカイブすることはできません。
- アーカイバの全文インデックス モードで検索機能を使用すると、検索したインデックス データのツールチップの検索キーワードはハイライトされません。これは、インデックス データが DocAve 6 サービス パック SP3 以前の DocAve バージョンで生成された場合に起こります。
- SharePoint Foundation 2010 または 2013 環境では、インプレース レコード管理の機能に対応していません。

## コネクタ

- SharePoint の Explorer ビュー上で大量のコネクタ スタブ、または大量のコネクタ スタブを含んだフォルダーを別のリストへと移動する場合、**このアイテムは見つかりません** というエラーが表示されることがありますが、フォルダーおよびコネクタ スタブは移行先へ正常に移動されます。この問題は SharePoint の制限により発生します。詳細な情報については、TechNet の記事 ([Issues Uploading Large Files to SharePoint](#)) をご参照ください (英語)。
- ネットシェア パスを使用し、バージョン管理が有効になっているコネクタ ライブラリについては、過去にメジャーバージョンを発行しており、かつ複数のマイナー バージョンを持つドキュメントの発行を解除する場合、.fsdl ¥history フォルダー内のファイル データが失われる可能性があります。これは SharePoint の問題です。
- 接続先フォルダー内のファイル数が 5000 を超える場合、接続先フォルダーのサブフォルダー内のファイルは SharePoint コネクタ ライブラリに同期されません。この問題は SharePoint API の制限により発生します。Microsoft では、1 つのリスト ビュー内で 5000 を超えるアイテムを一度に表示することを推奨していません。これは、SharePoint API でサブフォルダーの数を計算する際に問題が発生することが原因です。解決方法は以下の通りですが、これによりパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

SharePoint 全体管理を開き、**アプリケーション構成の管理 > Web アプリケーションの管理** へ移動します。お使いのリストをホストする Web アプリケーションを選択します (例: SharePoint - 80.4)。リボン上で [全般設定] を選択し、[リソースの調整] をクリックします。リスト ビューの閾値の上限が 5000 と表示されるので、値を編集します。[OK] をクリックして構成を保存します。

- サイト URL が長すぎる場合は、SharePoint 上で **コネクタ設定** ページに移動することができません。これは SharePoint の制限が原因です。**コネクタ設定** ページに移動する際に URL が 260 文字を超過する場合、エラーが表示され、ページへ移動することができません。



- コネクタ設定で、**ファイル システムからメタデータの読み込み** フィールドの [ファイル システムからメタデータを読み込む] を選択します。パスが長すぎる (255 文字を超える) ファイルのメタデータは SharePoint へ同期されません。SharePoint API では、パスが 255 文字を超えるファイルのメタデータを取得することができません。
- SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのテンプレートを使用して作成した SharePoint 2013 サイト コレクションでは、コネクタのライブラリを作成することはできません。
- エージェント サービスの中断中に SharePoint コネクタ ライブラリ内のファイルおよびフォルダーの名前が変更された場合、変更は構成パスの先には同期されません。
- SharePoint 2010 から SharePoint 2013 にアップグレードする際、コネクタ ライブラリに変換したメディア ライブラリは現状アップグレードすることができません。メディア ライブラリ内のデータは、アップグレード後は使用できなくなります。
- SharePoint の制限上の理由から、Information Rights Management (は接続データのバージョン ファイルには対応していません。
- ストレージ内にあるファイルのサイズが SharePoint 側では異なる場合、ストレージ側でのファイルの編集は可能でも、SharePoint 上ではこのファイルを開けない可能性があります。解決策としては、ファイルを再度開いてみるか、同期ジョブを実行します。
- サファリのブラウザー ではコネクタのリンクをアップロードすることができません。これは、サファリが Silverlight に対応していないため発生します。
- SharePoint 2010 のコネクタ ライブラリでは、サイト コレクションのごみ箱からファイルをリストアする場合、ストレージ場所に存在するファイルは非表示の .fsdl フォルダーからネットシェア フォルダーに移動しません。これは、SharePoint 2010 の制限によるものです。サイト コレクションのごみ箱からファイルをリストアする際にイベント ハンドラーが起動しないため、コネクタはこのイベントを識別することができません。この問題を回避するには、同期ジョブを実行することで、ストレージ場所にあるファイルは正しい場所へリストアされます。
- コネクタ先のフォルダーがコネクタ先の環境内のごみ箱フォルダー (...¥fsdl¥\_r) にまだ残っているため、SharePoint のごみ箱から SharePoint へフォルダーをリストアし、[コネクタ リンク ファイルのアップロード] を使用して、ファイルをリストアしたフォルダーへアップロードする場合、ファイルのアップロードに失敗する可能性があります。フォルダーをリストアし、ファイルをアップする前に同期が正常に機能していない場合、コネクタ ごみ箱フォルダー (...¥fsdl¥\_r) 内に関連するストレージ フォルダーが残っています。この問題を解決するには、同期を実行してフォルダーをストレージ システムの正しい場所に移動してください。
- HTTPS プロトコルを使用しているサイトでは、.m4v、.mp4、.wma、および .3gp ビデオは起動しません。
- コネクタ リンク ファイルを含むフォルダーを SharePoint のごみ箱へ削除し、DocAve 6 SP4 に更新してから同期ジョブを実行する場合、ストレージ内の関連するコネクタ リンクのファイルはフォルダー (...¥\_r) に移動しません。

- コネクタでは、ファイルのチェックインおよびチェックアウト機能に対応していません。
- DocAve 6 SP3 でストレージ パスを構成し、構成したパスを削除した後 DocAve SP4 に更新する場合、削除したストレージ パスに対する資格情報は管理アカウント プロファイルに保存されます。
- SharePoint 2013 環境では、コネクタ ライブラリの SharePoint 側でエンド ユーザーが Office 2010 を使用して Office ドキュメントを使用した場合、初回は問題なく編集および保存することができます。ところが、ファイルを閉じないまま引き続き変更および保存を実行しようすると、[更新が必要です] というエラーが画面上部に表示されます。この場合は、エラーを無視してファイルを再度保存してください。

## ストレージ マネージャー

- スタブ トレース機能が、読み取り専用 SQL Server コンテンツ データベースに存在する SharePoint サイト コレクションでアクティブ化されている場合、[外部化の詳細] ボタンはファイル メニューに表示されません。これは、コンテンツ データベースが読み取り専用のため発生します。SharePoint 環境では、関連する権限を必要とするコントロールは非表示になります。
- STSADM で "backup" コマンドを使用し、孤立したスタブを含む SharePoint 2010 サイト コレクションをバックアップすると STSADM コマンドがフリーズし、関連する SharePoint 2010 サイト コレクションのロック状態が読み取り専用 (追加、更新、削除をブロックする状態) に変更されます。この問題は SharePoint の制限が原因で発生します (SharePoint 2013 では解消されています)。
- EBS を有効化した環境で AgentToolSP2013MoveStub.exe ファイルまたは AgentToolSP2010 MoveStub.exe ファイルを実行してサイト コレクションを別のコンテンツ データベースに移動する場合、サイト コレクション内の元のスタブ (サイト コレクションの移動前に生成されたもの) と新たに生成されたスタブ (サイト コレクションの移動後にストレージ マネージャーのスケジュール ジョブで生成されたもの) へはアクセスすることができません。ただし、実コンテンツへの変換は正常に実行することが可能です。
- 長い URL を含むサイト コレクションに対して [代替ファイル アクセス] 機能をアクティブ化し、制限付きファイルをサイト コレクションにアップロードした場合、アップロードは失敗します。SharePoint 2010 では、サイト コレクションの URL は 156 文字以下である必要があります。SharePoint 2013 では、サイト コレクションの URL は 152 文字以下である必要があります。
- サイト コレクション (プラットフォーム バックアップ & リストアを使用して、リストアする前にスケジュール ストレージ マネージャー ルールが適用されたもの) を、プラットフォーム バックアップ & リストアを使用して [元の場所へリストア] を選択し、スケジュール ストレージ マネージャーでジョブの実行を選択した場合、ジョブは失敗します。この問題の回避策としては、ツリーを更新後、スケジュール ストレージ マネージャー ルールを再度適用し、ジョブを再実行します。
- SharePoint 2013 のサイトに対し [代替ファイル アクセス] 機能を有効化します。制限付きファイルまたはブロックされたファイルをライブラリへアップロード、ライブラリのファイル リンクを選択し、表示されたウィンドウ

上で [保存]、[開く]、または [キャンセル] を選択した場合、ファイルをライブラリからダウンロードすることはできません。回避策としては、該当するサイトから **サイトの設定 > サイト機能の管理** に移動し、[ダウンロード最小化戦略] 機能を非アクティブ化します。

- 代替ファイルをコネクタ ライブラリ、または代替ファイル アクセス機能が有効化されたストレージ マネージャー ノードにアップロードする際、ファイル名が 123 文字を超えるファイルのアップロードは失敗します。この問題は SharePoint の制限により発生します。SharePoint にアップロードするファイルの名前は 128 文字以内である必要があります。SharePoint に代替ファイルがアップロードされる際は、ファイル名の後ろに自動的に ".aspx" が追加されます。このため、代替ファイルの名前は 123 文字以内である必要があります。
- 列の追加設定で使用するコンテンツ タイプの管理では、ドキュメントへのストレージ マネージャー リンクおよびマルチメディアのコネクタ リンクや、ドキュメント コンテンツ タイプへのコネクタ リンクに対応していません。
- コンテンツ データベースのファイルストリームを有効化した後、このコンテンツ データベースの RBS を有効化します。そして、リアルタイム ストレージ マネージャー ルールを構成し、SharePoint へのルールを満たすファイルをアップロードする場合、ファイルは SharePoint 上でスタブにはなりません。この問題は SharePoint の制限により発生します。この問題を解決するには、エージェント サービスを再起動する必要があります。
- コンテンツ データベースのファイルストリームを有効化し、ルールを設定をした場合、このルールを満たすファイルは SharePoint へのアップロード後、スタブとなります。DocAve エージェントをインストール後、ファイルストリームによって設定されたルールを満たすファイルは、ファイルストリームが有効になっているコンテンツ データベースへアップロードすることができません。この問題は RBS ロジックにより発生します。詳細については、AvePoint のナレッジ ベースに関する [Solutions for FileStream Provider and DocAve 6 RBS Provider Coexistence \(英語\)](#) を参照してください。

## 通知

本書に含まれる内容は AvePoint Japan が所有かつ提供し、AvePoint Japan およびライセンス所有者に帰属します。本書の内容は著作権および商標登録およびその他所有に関わる法律によって保護されます。本書に掲載する通知および著作権の情報のいかなる削除ならびに変更も禁じます。

## 著作権

Copyright © 2012-2014 AvePoint Japan K.K. All rights reserved. 本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本および国際著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社 (〒108-0074 東京都港区高輪4丁目10-18 京急第一ビル11階)、ならびに本書に掲載する情報がサードパーティに所有される場合サードパーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。また上記の如何に関わらず、本発行物内の AvePoint 関連の情報 (派生物及び変化物を含む) の何人による複製及び転載も禁じます。また、如何なる複製物並びに転載物も自動的に AvePoint に属するものとし、該当者または継承者、担当者、相続者、恩恵者、実行者のいずれも該当複製物並びに転載物を直ちに AvePoint へ返却し、必要書類に署名することに同意するものとします。

## 登録商標

AvePoint<sup>®</sup>、DocAve<sup>®</sup>、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロパティであり、文書による許諾なしには使用できません。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010/2013、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Windows はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は Adobe Systems, Inc の商標です。

その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

## 変更

本書の情報は情報提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく AvePoint ソフトウェアのグラフィック ユーザー インターフェイスを変更する権利を所有しています。

〒108-0074

東京都港区高輪4丁目10-18

京急第一ビル11階